

カテイラン

白地のメリンスは普通の洗濯石鹸で洗ふとぢき色が茶つぼくなつて汚くなりますから、必ずマルセル石鹸を用ふことです。まず一軒の湯に細く刻んだマルセル石鹸を茶匙に二杯溶かし湯が

常磐文藝

(高月舎) 霜柱
軍營に降る馬蹄や霜柱
曉天に閃めく剣や霜柱
同
朝まだき逸する馬や霜柱
同
さく／＼と馳ふみゆく霜柱
閑月
神僕の惹ほる畑や霜柱
牛城
霜柱ほりあらしたる砂利取場
雪村
赤い手にのせしも見たり霜柱
鶏山
足跡の光るあしたや霜柱
松童
霜柱くづす人なき別墅かな
揚臺
霜柱くづれて崖の土新た
同
門出の草靴にふむや霜柱
大北
霜柱と眠りの覺めの裏小路
雙石
罪故にふむか及の霜柱
紅陽
袖の負ふ斧の光や霜柱
夢香

人肌位に冷めたとき洗濯ものを入れよく布に石鹼液が泌みたら洗濯板の上に取り出して、ブラシで軽くこすつて洗ひます。両面ともかうして洗つたら濯ぐのですが、濯ぎ湯も必ずぬるま湯を用はねばならぬ。手製の曇りガラスよく普通のガラスに糊を塗つたりしますが、それより

雪姫 荷香

ふわり／＼と雪姫が風のまに／＼落ちて来て私のからだにからみつゝそんな私に私に戀しいのやはり私も戀しいよ真白いた手々で私の手を握つたの私がお話ししやうとわもつてる間に消わつちやつた

△土地建物

賣買并ニ是ニ關スル萬般ノ御相談ニ應ズ

△床板、床縁 落掛

澤山新荷着

◎大谷石本場一等

品寸法御望次第
磐城建物
株式会社
平町五丁目
電話五一八番

も四オンスのビールに一オンスの硫酸マグネシウム(硫酸)を混ぜこれを海綿に含ませて塗ると、乾いてから細い結晶體がガラス面に残つて綺麗な曇りガラスになります。二度ほど塗つて乾かせてから、薄く無色のニス塗ると、なほ綺麗な

製材機械、人魚印丸鋸

自動注油メタル、プーリー在庫
ゴムベルト、バラタベルト
平町月見町
佐藤鐵工所
電話三六二番

銅御殿は贅澤に非らず

建築用材として銅板を樂獎す
一、銅板の特色
其の用途は屋根、樋、扉、軒、蛇腹、戸張、戸袋、煙突等、家屋内外の裝飾、日用品に至る迄範圍極めて廣汎にして世界に誇るべき我が國の各種保護建築物は之として使用せざる無く其の耐久力の如何に卓絶せるか數百年の今日猶古色蒼然として高尚優雅なる實に贅澤を超越せる經濟的逸品たるは到底他の及ぶ處てありません
二、焦眉の急務
震災地の復興一日を競ふの時理想的唯一の材料として本来の眞價を發揮し來たり需要益々旺盛です、況んや此の際大なる覺醒の下に一新規劃として正に改造するべき御建築に對し切に我が完全無缺なる銅板の御使用を御勧め致します。
三、弊店の信條
價値低廉、品質精撰、出荷迅速、誠實無比を綱領として在庫豊富に取揃へてあります。
何卒多少にかゝはらず御用命願ひます。
古河電氣工業株式會社
日光精銅所特約發賣元
平町五丁目

和洋銅鐵 釜屋商店

振替貯金口座東京一〇九五六番
電話四九番 一三三九番

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雑誌が 自由に讀める

平町長橋町三五
川崎回文庫
(申込次第規則書進呈)

式賣買中値

左記の値段は日本の標準値に付御用の節は御問合願候

磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	六八〇
磐越銀行	二二五	一〇五
磐城實業	三〇〇	三〇〇
田村實業	二二五	二二五
四倉銀行	二二五	二二五
農工銀行	二〇〇	二六〇
同 新	一五〇	二〇〇
白七銀行	五〇〇	五三〇
同 新	二二五	一四五
七七銀新	二二五	九五
郡山電氣	五〇〇	三七五
同 新	二二五	一七五
只見川電	二二五	六〇
植田水電	二二五	一三五
好間水電	二二五	一三五
磐城建物	二二五	五五
磐城製菓	二〇〇	六五
平信託	五〇〇	四九〇
磐城物業	二二五	二二五
平製水	二〇〇	二二〇
好間軌道	五〇〇	三五〇
小名商事	二二五	二二五
小名水産	二二五	二二五
小田炭礦	二二五	五五
磐城炭礦	二二五	三七五
同 新	二二五	一五〇
磐城セメント	五〇〇	九一〇
同 新	一七五	三七〇

買實誠實懇切機敏に御取扱申候間多少に不拘御用命願候

平町田町電話三三三番
丸登株式会社
川添房二郎

價定 一部金貳錢 月極 二限リ一ヶ月卅錢
料告廣 五號十三字詰 一行五十錢
日刊休 日曜 大祭
祝日の翌日
所刷印 福島縣石城郡平町 田町十六番地 磐城新聞社印刷部
印刷人 川崎文治
發行兼 川崎文治
編輯人 川崎文治
印刷人 川崎文治
所行發 福島縣石城郡平町 字長橋町卅五番地 常磐毎日新聞社



刊夕日一十月一

惠まれた天職

の尊さ (三)
川崎小島
本紙は便宜上磐城新聞社の工場に印刷を依頼して置く爲めに能率の關係でどうしても刷り上りが遅れる、而し配達少年達は嫌な顔を一度見せた事がない、イツでも晴々と元氣に満ちた顔をして居る、
僕は彼等の熱心な態度に動かされ一社一人主義を標榜してやつていく上に非常な力を感得する場合が屢

々ある、風の冷い晩等に「今夜はひとからう」斯う云ふと彼等は「走つて居る間は寒いナンカ一寸も考へないんです」眞面目になつて斯ふ打消す
世に無邪氣な者程強い者はない、彼等の小さな体には冷たさを滅却し是れを征服し去り得べき天與の力が漲つて居る。僕は彼等に向つて配達せんが爲めの配達であつてはならない、小さな時から勤勞の精神を養ふ意味に於て
職務の尊さを忘れては

ならぬ、總べてが修養であつて他日自己を修める基を爲すものであると説き聞かせる、彼等は従順に肯くのである。全く配達少年達は新聞經營の上に缺くべからざる
要素であり
礎であつて
讀者對本社の連結機關である。雪の日や、あれも人の子持拾ひ」此一句が肺肝を貫く悲痛なものか、あつたとしたら、我愛する配達少年達が諸君の家を訪れる時、矢張り人の子として同情ある一瞥を切望したいのである (完)

告の期

(決解とすあ)

皇太子裕仁親王殿下と久邇宮良子女王殿下御結婚告期の儀は、一月十二日と確定されたが、御取りは最初の御決定に意外の障害を生じた結果、宮内省局も一方ならず周章狼狽し、十日、醍醐式部官を召津御用邸に伺候せしめ、御内儀の思召しを奉ずることになつたが、十一日、同式部官が旨を奉じて歸京最後の確定を見あはしたとして、御裁可を得て告期の儀當分の午前十時、徳川侍従長が勅使として久邇宮家に参向、良子女王殿下に勅旨を宣すと同時に、宮内省から官報號外で一般に公表される筈である。(本日東京電報)

御日取も同日御公表

郡内の養蠶家を糾合

御成婚記念の一事業として、基礎の強固な組合を新設

石城郡には、縣政官の御成婚記念事業の一つとして、郡内各町村養蠶家四百名發起となり、養蠶組合を組織し、新業の發展に資する計劃であるが、組合事業は左の通りである。

△優良蠶種の統一を計る
 △生産量の販賣方法改良
 △桑園の改良
 △飼育法の改良
 △各種調査統計の作製
 △組合員間の親睦を計るの件

無電通信

鮎漁場調査

鮎城丸は鮎漁場調査の爲め、去る六日午前十時小名濱を出航、十日午前二時犬吠崎沖合にてマガジキ二尾、ビンナガシビ三尾を漁獲し、午後四時頃再びシメカジキ一尾、鮎長尾五尾を漁獲したが、十一日午前二時、鮎子へ入港し

平驛では、虚禮満々たる停車場の送迎者に無駄をはぶかせる主旨を以て、無制限な入場券の發賣を禁止する方針で、目下新驛長が水戸運輸事務所に

虚禮廢止の意味

平驛の收入に影響がない、人々の公德心に依る解決

始めた、送迎を盛んにする爲めに、其人自身が入場券をよこしたまひ込んで、知人間に依頼する程で整理上非常に困る、全々廢止し、たとて鐵道の收入には何等の影響もないのであるが、唯人々が公德心に訴へて當局で制限や廢止をやらぬ前に解決して欲しい」との事である

各炭礦 活況を帯ぶ

石城郡内各炭礦は、需要季節を迎へ、帝都復興に要する燃料増加の影響を受け、且つ又北海道、九州方面の輸送が杜絶したので、俄然活況を呈し始めた

米組合新設

規約起草中
 平穀物検査支所にては、郡内産米検査が徹底しないので、從來非常な手数と時間を要しても、効果の渺い事から、各町村に産米受検組合を組織し、其受検と時間の節約や生産者と需要者との取引の圓滿を期すべき美風を作興せんとして、安島支所長が組合規約の案を作製中だ

密獵者の防止

飯野村獵友會は、十日午前八時から谷川瀬永山松吉方に、總會を開き、役員改選其他を附議し、同村山林の密獵者防止の目的にて取締を爲した

鮮人の慘死

炭車に轢かれ
 石城郡磐崎村藤原炭礦坑夫、鮮人損徳三三三(三八)は、九日午後九時頃作業に行く途中、湯本方面から疾走し來つた炭車に轢かれて慘死した

感冒が猖獗

悪性ではない
 地方には、舊臘中から感冒

不平受付

成田山の路次、平館と成田山との路次は、夜間暗い爲めに、青年男女の密會多く、且つ大小便を爲す者がある爲め、風紀上や衛生上から考へて、甚だ面白くない、平館非常口附近に電燈を一個、番發してはどうせう(逸名氏)

眞性慾の問題

文明の社會に於ては、女性に於ては、彼女の旗日を高調して、安慮を主張する權利を與へられて居る。女の職工女の先生など、此の日は、大威張で休務して差支ない。是も所謂母性保護の一部である。月経は準備である。準備の整はぬうちに之を妨げるのは、恰も花嫁の仕度部屋を窺ふやうなものである

鹽の賣上高

一年に四百萬斤
 平町鹽元賣捌所管内の小賣所は、現在六百ヶ所、双葉郡及び隣縣多賀郡の一部も管下に屬して居るが、昨年中の賣上高は、四百萬斤で、前年より四萬斤増加したと

航空講話

十三日會にて
 平町十三日會は、明十三日午後七時から、平銀行樓上に於

佐々木少佐の航空講話

平町十三日會は、明十三日午後七時から、平銀行樓上に於

平町人事

▲出生
 △鎌田町 青木龜吉三男敬之
 ▲婚姻
 △三丁目 久野文次郎(四) ○ 静岡縣渡邊(四)

常磐片々

新春勢頭 攝政宮御慶事
 來二十七日の當日には、萬民均く衷心よりこの英邁睿智に在りて、陛下の御前途を祝しまゐらすべし

平驛待合室の遺失物、不景氣になつて數がヘツタと

不景氣は人間を用心深くなくすものなりと云ふ落言があつたをうだ

しかし平驛の入場券は不景氣でもよく賣れる

其處で新驛長が入場券制限の新考案

磐城建物總會 平町磐城建物株式會社にては、來る廿六日午前十一時から、定時總會を開き、監査役任期満了に就改選を爲し、營業報告其他を附議すると

三大節に準じ
 奉祝の誠意
 教育課の通牒
 石城郡各學校に對し、縣教育課より攝政宮御成婚に關して左記通牒があつた

來る廿七日攝政宮御成婚の大典を行はせらるゝに付、各學校に於ては、當日三大節に準じて奉祝の誠意を表する事

平驛に……
 忘れた物品
 昨年中二千點
 降客が置き忘れた物品は二千五百七十六點あるが、其半數は風呂敷包みで中には寫眞機等もあり、千二百點は遺失者が受取りに來たと

小名濱寒稽古 石城郡小名濱青年團にては、十日か